

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業 最終年度評価結果
(様式3)

整理番号	1	大学名	東京科学大学
事業名	Technology Creatives Program (通称テックリ)		

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

<優れている点>

- ・東京科学大学・多摩美術大学・一橋大学の3大学による連携体制のもと、テクノロジー、アート・デザイン、ビジネスを統合した教育プログラムを構築し、産業界や外部専門家を含む多角的な評価体制を整備し、定量・定性の両面で評価を行い、PDCA サイクルによる継続的な改善が行われており、修了生の上級トレーナー化や、海外大学からの講師招聘など、事業継続の基盤となるエコシステムを構築している。
- ・PBL やフィールドワークなど実践的学修機会が安定的に提供され、Effectuation 理論の導入などの工夫により受講生の主体的学びを促進し、多様な専門性を持つ教員配置と継続的な外部評価によるプログラムの質向上により、修了率 9 割を超える高い成果も確認でき、TecreComp/TecreQuest を用いた定量・定性評価により、創造的思考力や行動変容を把握し、改善に反映する仕組みも確立されている。
- ・アルムナイ・トレーナー制度による継続的な人材循環が機能しており、拠点形成と人材育成の持続性が高く評価できる。受講料設定により、事業規模を維持したまま継続可能な運営見通しも示され、資金面でも一定の持続性が確保されつつある。
- ・地方拠点展開に向け、北九州市立大学との連携や FD ワークショップの開催などを通して、北九州市立大学の授業へ実際に導入されるなど、他地域・他大学への反映は評価に値する。

<今後、期待する点>

- ・受講者数の確保が継続的な課題となっており、ここ数年受講者数が目標を下回っていることから、企業派遣と個人参加のバランス最適化など安定的な受講者確保に向けた構造的な改善が引き続き必要である。企業にとって分かりやすい成果指標を示すことや、事業化や社会実装の広がり示す成果を可視化していくことを期待する。
- ・教育訓練給付金制度の適用が遅れ受講料が据え置かれていること、及び Creatives 系受講生の応募減少に対する恒常的な対応策が必要であることから、今後は評価データをさらに蓄積し、修了後の活動や社会実装との関連を中長期で分析する体制づくりの構築を期待する。
- ・事業の継続運営に向けては、受講者数の変動を見据えた複数シナリオによる運営モデルの構築が必要であり、企業コンソーシアムや協賛事業による収入確保および将来的なビジネス化における具体的な運用方法の確立を期待する。
- ・社会のトランスフォーメーションを推進する上で、デザイン思考は教育・研究・実践の中核となる考え方であり、デザイン思考を基礎力として位置づけ、他領域との組み合わせ応用範囲を広げていくことを期待します。